

活動報告

団体名	公益財団法人全国青少年教化協議会
活動名	西日本豪雨災害における被災者のこころのケア活動
活動期間	2018年7月～2019年3月
活動の成果	<p>当該地域は比較的自然災害がこれまでほとんどなかった地域であり、災害時の緊急対応やその後の復興プロセスの中で大きな混乱が見られた。行政機関、社会福祉協議会においても、セカンドフェイズ以降のヴィジョンを抱けずに、日々のニーズに対応せざるを得ない状況の中で、職員の心身の疲弊、バーンアウトが懸念される状況にあった。被災地の外部からセカンドフェイズ以降、継続的に支援が入ることは、被災者の心身の状態の安定、および経済的な復興のために必須なことであると考えられる。本会の支援活動は、主にセカンドフェイズ以降に訪れることが想定される、トラウマやグリーフによる心身の疾患を防止する役割があり、特に、応急仮設住宅において孤立している高齢者の方々の孤独感や自尊感情の喪失、そして結果としてもたらされる自死念慮の発現を少しでも軽減していただくために一定の効果をあげたと受け止めている。</p> <p>緊急の講習会において育成してきた傾聴ボランティアの役割は、こころのケアのみに止まらず、被災者の声に出来ないさまざまなニーズを把握し、代弁者として行政機関等に伝え施策に反映してもらう機能も担っている。当該事業の目的達成のための活動は緒に就いたばかりといえる状況ではあるが、被災者の思いを反映させるアドヴォカシー活動、そして支援者に対する啓発活動として一定の効果を上げたと受け止めている。災害時のトラウマやグリーフに関する意識が、被害者のみならず行政関係者を含む支援者の中に、一定程度、明確な形でもたらされたものと考えている。</p> <p>その数値的な根拠について、本活動と因果関係を明確に示すことは難しいが、今回の災害後における自殺者を含む災害関連死者数が、東北の震災時に比して相対的に少数に止まっていることがあげられる。しかしながら、同様の活動は長期間にわたって継続的に為されるべきであり、今後の支援活動の重要性に着目してもらいたい。</p>
寄付者へのメッセージ	<p>ご寄付を頂いた皆様のお力により、被災者の方々やそのご家族の方々は、日常生活を取り戻すために一步一步進んでいらっしゃいます。しかしながら、心身の健康を取り戻し、経済的・物理的な復興を遂げるまでは、まだまだ長い年月が必要な状況です。是非とも西日本の被災地の事を忘れることなく、引き続きお見守りいただき適切なご支援をいただきますようお願い致します。</p>

(活動のようす)

いのちのカフェ ハーブティーサロン



☀️入所者の方・ご家族の方・地域の皆様、
お気軽にお立ち寄りください ☀️

【オープン日程】

3/14(木)10:00~12:00

会場：クレールエステート悠楽・地域交流スペース

～MENU～(全て無料)

- *カモミール *エキナセアオレンジ
- *オレンジピール *レモングラス
- その他、コーヒー・紅茶もごさいます。



主催：全国青少年教化協議会
岡山広島仏教青年会
協力：倉敷市社会福祉協議会
助成：中央共同募金会

